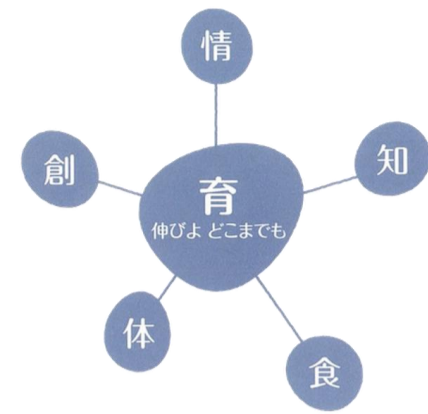


1. 本園の教育目標～めざす子ども像～

- 友だちとのふれあいを喜び、思いやり、やさしさをもった豊かな子ども
- 「ありがとう」「ごめんなさい」と、素直に言える子ども
- 物を大切にしたり、身近な生き物を慈しむ子ども



2. 本年度の重点的に取り組む目標

- 1 保育の質を高める
- 2 思いやりの心を育む

3. 本年度の評価項目の達成状況及び取り組み状況

評価 A. 達成している B. 概ね達成している C. 一部改善を要する D. 改善を要する

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果					自己評価結果		
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	取り組み結果・成果などに関する教職員の主な意見
保育の質を高める	子どもが楽しめる環境構成で遊ぶ	4	子どもと一緒に作る環境構成	2.5	4	子ども達自らあそびの環境を再構成していた	2.6	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの今興味のある物を見極め、発達を踏まえて、この遊びにはもう少しこういったものを増やした方が遊び込めるのではないかと今の発達にはどういった遊びを準備すると遊ぶのではないかと考えてクラスの先生と共有しながら環境作りをした。 落ち着いて遊べるよう、コーナー作りを工夫したり手作り玩具を作ったり飽きがこないように玩具を変えたり等行ってきたが、まだまだ子どもたちが遊びこめる玩具を増やし、コーナー作りを工夫し改善していくべきだなと思う。
		3	子ども自らあそびを選択し、あそび込めるコーナー作り		3	特定のアソビだけでなく様々なアソビを展開した			
		2	子どもが好奇心をもって探求できるコーナーを準備する		2	友達と一緒に好きなアソビを楽しんでいた			
		1	あそびの中で育てほしい子どもの姿について学び合う		1	子ども達はいつも同じアソビをしている			
	保育者同士が意図を共有する	4	園内研修で共有する	2.2	4	保育者同士別の意見でも共感だけでなく思いを伝えられるようになった	3	A	
		3	子どもを交えて遊びを展開させていく		3	保育者は子どもの興味アソビを意識し日々の保育で感じたことを共有する場が増えた			
		2	あそびのパターンを考える		2	保育者はクラス会議等少数の場で自分の意見を出せるようになった			
		1	保育の中で子どもが夢中になっているアソビを保育者間で共有する		1	保育者がアソビについて全員発表する際には思いや考えを伝えるとができた			
思いやりの心を育む	異年齢交流を気持ちよく	4	保育を実践して結果を保育者間で話し合いながら検討する	2.2	4	子ども達同士のかかわりの中で相手の気持ちを受け止めようとしていた	3.5	A	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に遊んだり、どんなことをしているのかを見たりした。異年齢交流を行うことで年上にも年下にも相手の気持ちを考えかかわる姿が見られていた。 1学期は毎週しっかり計画を立てて行うことができていたが、2学期に入り行事に追われて計画を立ててが難しかったがそれぞれタイミングが合うクラス、活動内容が同じ際は一緒に活動したりなどが各クラスできていたのではないかなと思う。 日頃から異年齢で関わる接する機会（荷物整理の時だけお手伝いにいく手洗いの仕方を教えてあげる朝の集まりだけでも一緒にするなど）を少しの時間でももっと増やせたらよかったなと反省するところもある。
		3	積極的にかかわるよう援助する		3	生き物や植物のお世話を進んで行い、どのようにしたら良いか伝える姿があった			
		2	年齢に応じた育ちや大切にしたいことを保護者間で話し合う		2	年下の友達の朝の準備や衣服の着脱等手伝っている			
		1	異年齢交流を定着できるよう計画する		1	困っている友達が側にいてもどうかかわっていかかわらず戸惑っている			

4. 学校関係者評価委員による評価及び意見	5. まとめ(総合的な評価結果と今後の課題)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化、兄弟のいない園児には異年齢交流は良い取り組みだと思う ・ 二学期に入って行事の多くなる時期でも取り組み結果が3.5と好成績なのは予想以上の結果が得られていると考えます ・ 保育者同志の積極的な意見交換を積み重ねていく事によって、子どもへの保育観に自信がもてるのではないかと 	<p>幼児教育アドバイザー小島先生の丁寧なご指導のおかげで、日々の保育における目標を明確に掲げ、その成果と課題を捉えられるようになった。そこから次の目標が見えていくという循環が生まれ、保育の組み立て方やあり方に連続性が育っていくことを実感し、深く認識することができた。</p> <p>子どもの保育を構成していくのと同じように、私たち保育者自身も、常に目的や意図を持ちながら日々の実践を磨き続けていきたいと感じている。来年度に向けてすぐに取り組み、教職員が皆で意識しながら取り組み、保育のイメージ化が実現できることを願いたい。</p>